

福不埒と民聲

發行日 一、十、廿一 (毎月三回)
編輯兼發行人 齋藤角治
行印刷所 磐城之民聲社
福島縣平町南町七十八
廣告料 普通一行五十錢
特別 七十錢
一部十錢 一月廿錢 送料共

漁獲上の繋争問題

四倉の主張する處

正當なりとして

一般より認識とるゝと共に
同賛の聲大に揚る

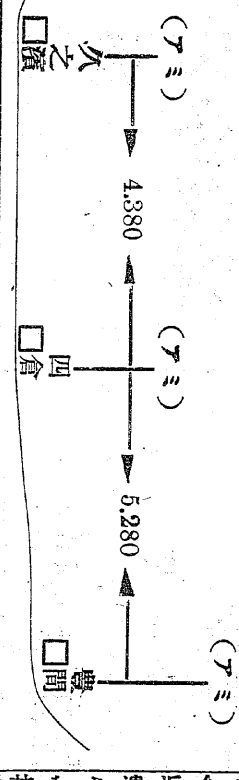
四倉對豐間久之濱之巡

四倉港が天然的に恵まれたる漁場として磐城七濱に其雄を誇つて居る事は己に周知の事實であるが、去る昭和五年の長官小柳知事、金森内務、野上商工時代に四倉がブリ角網の出願せらるゝや直ちに許容せられ産卵季には何んでも彼んでも魚簇の集るゝ云ふ四倉近岸特有の前磯や、夏井川下流の(まんぢう目)云ふ鯛魚の最も好物なる生産を目當てにつこひ來るゝ云ふ自然に恵まれたる漁場故向一層の豊漁を見るに至つた。而して其ブリ角網は沖出し二千五百六十間を可させられその角網の委任經營に係る賃借者の坂本氏の手腕と相俟つて愈々豊漁に向ひつゝ有るが、其實五、六、七の三年はむしろ決損の状態をやつと昨八年度が手一つばいにやれたと聞き、何れにしても石城七濱の否縣下一の漁場なるが故に目下の漁港修築を農林省始め縣が認め茲に實現せらるゝに至つたのである。

それに四倉町は今般農林省の經濟更生の指定町村である以上漁場に有る四倉町の經濟更生は何に依らねばならないか、改めて言ふ海即ち漁四倉町の經濟更生は目下非常時の四倉漁業組合の經濟更生を計らねばならない。然して全組合の更生は今回出願に係るブリ落し網を以て補ひ之

れが今回出願したる秋漁季のブリ落し網で有り又は隣り同志の幸ひの的と成つたので有る相手は太平洋、庭の小池の小魚を大供がタモで掬ひ合ふ如き争ひは余り小過ぎるでは無いか。四倉町に於ても過般の町會に町議吉田彌十郎氏外四氏を委員に擧げ正當なる事由で飽迄四倉漁業會の爲め奔命する事に確定、己に出縣正義の主張を貫徹す可、努力せられつゝ有るのである、今左に本社の調査に依れば

- 一、四倉角網は昭和五年小柳知事時代ブリ角網沖出し二千五百六十間を許可せられたる事
- 二、網と網との間隔は己に農林省に於て五千間を可とすとの令あり
- 三、豐間と四倉との網張りの間隔は五千二百八十間を算せられ有る事
- 四、久之濱—四倉の間隔は四千三百八十間有る
- 五、秋網は網口を北向に張る關係上それに久之濱は前網なる故を以て何等の損害を及ぼす事實無きこと
- 六、豐間は其間五千間余の隔りは勿論左に示す沿岸の畧圖に依り素人にも判る様な氣がする



以上の通り有るにも不拘其前網で有るに隣りでは人の禪迄借りて否モラツテ迄で角力を取らなくては無ならない。行司の當局果して何れに軍扇を揚ぐるか八百長で無い限り此勝名乗りは一番勝負に叶ふ四倉關に軍扇は上がるものと見物人は片づを呑んで見て居る。

四倉漁業界の恩惠的人物として努力を怠らぬ

漁業組合長 菅波末吉氏

本縣漁業界に於ける達識者とし増長するに至り益々四倉漁業界で知られてゐる。菅波末吉氏はの王者として實績を擧げつゝ、不言實行の人として現在の信用することは四倉將來のために町民を導いてゐるが、氏が組合長とが永遠に忘却し得ざる次第であつて就任以來着々として怠る處なく今や四倉漁業組合の信望を

新妻町長愛町の全精力は四倉町の繁榮を物語る

新妻町長は天下周知の祐天上人の後裔を誇るに足る人格者として其の再現を悦ばるゝ迄に町治の爲めに奔命を續けてゐるが、會つて本紙が報導した如く漁港築修のためには或る場合は生命を犠牲にする覚悟を以て居るが、正義に悖ればゲンコツを振り廻す半面情義のためには涙多き四倉消防組頭金成岩吉氏、従來町青年の朗かなる教導と町安全のために身を賭して盡瘁しつゝ、今日の快男金成として生きて居る。

快男子

金成岩吉君

磐城 久平町
釜屋金物店
電話九・九九番

を賭した事もあつた程であるが今や誠意酬ひられて其の完成の近きつゝあることが氏の努力を遺憾なく物語つて居る。尙企畫された水道工事も近く其の施工を見ることとなり町民は擧げて其の竣工を待望しつゝある。

滋養萬点
美味唯一
ウニの罐詰
製造元
吉田彌十郎
磐城國四倉町

四倉町を代表する 新進の實業家

長谷川長太郎君

剛健の裡に温容に富む長谷川長太郎氏は専心の材木、土木請負業者の華形的人物として將來の大成を期待されつゝ現在の信望を擔ふに至つてゐるが、氏は努めて町治の上にも正義に所する人として町議の名を耻かしめず四倉町繁榮の爲めに粉骨碎身の努力を惜まず已らば町議と迄の信望を博してゐるが、今更に於ける漁獲競争問題に關しても率先町漁業界のために奔命をされてゐる。

双葉通信

坂本榮助翁は年既に六十路の坂を越いた老翁者ではあるが満身健康に恵まれてゐる徳な人であるだけに一年中を働き續けてゐられる、亦翁の言ふ所一言一句決して無駄口を利かない、一言一句の裡にも眞精神の迸りがまぎと現はれてゐる、そこが翁の信條点である。

故に翁は村内の生神様として敬信を一身を聚めてゐられるよく困る人の面倒も見てやりますれば公益事業等を熱心に盡力されてゐる。

翁の經營する農具製作所からは多年の苦心による立派な農具が間に合はない程多數に搬出されてゐる。そして關西北海道方面から多數に注文を受けてゐることも周知の事實で如何に翁の製作に係る農具の聲價を認められてゐるかが之によつて如實に證明されてゐる。

大原消防組頭

令兄縁川喜三郎氏其のまゝに消防界に斷然光輝ある人として斯界の重責を擔つてゐる。

遠藤驛長の好評

夜の森の遠藤驛長は青年時代文筆家として名聲を轟かした文士であつたが、途中鐵道驛員として俸職するやその才幹を認められたトント、拍子で驛長にまでなつた。尙將來大きくなる人として囁まされてゐるが、現在同驛の成績最も見るべきものありとして賞讃の的となつてゐる。

亦全氏は年々酷暑の候列車のついで毎に飲用水を機關係員に配水して係員を慰安してゐることも有名な話の一として頗る感謝されてゐる。

◆双葉郡大野村は村といふよりも町がかつた割合に賑かな繁榮村である。

◆驛前には醫師として同郡中の者宿石田醫院がある。

◆先生は年既に七十を算へる程だが壯者を凌ぐ元氣さで親切に患者を取扱つてくれるので頗る好評がある。氏は小愛馬家として有名である。

◆郵便局長である吉田良治氏亦精勤家として令名がある。

◆驛長としての關門を預る齋藤仁二氏は温良にして事務精通の譽れがある。

大野驛近くに在る

杉並鑛泉は

◆神経痛リウマチス、胃腸に特效ある温泉場で、吉岡氏が經營されてゐる。座敷も清潔で、入浴料も至つて安いとの評判なので開業早々日淺きにも不拘滿員の繁榮さは結構な事共である。

優良炭

杉山炭礦

礦主 杉山今朝吉

皆様のために便宜に御相談の……

好相手 一徳合資會社

世界の館の偉容

◆前澤稻子嬢來る◆

帝都の實業家前澤家の令嬢「稻子さん」(十一)は其の天分を見出され滿州皇軍慰問使として荒木前陸相始め諸名士の推賞と感謝状を贈られ遂に映畫王國松竹キネマのスター栗島すみ子と初舞臺として近日某映畫の撮影に着手する事となつたが今八月三十日より七日間常磐線に群を抜く映畫常設當地世界館に其神技を見せる事となり一般ファンから非常に喜ばれて居る。

磐城共濟病院

福島縣平町大町(電話六四一番)

院長 醫學博士 石山謙郎
事務長 鈴木寶雄

東北の名湯

大關鑛泉

大關鑛泉は萬病に卓効ありとして周知されてゐます。今からが本當の大關鑛泉御來湯の時です、松緑滴る廣汎なる鑛泉、還境には美味溢る、茸が簇生して一層の清興を添へて居り升。

縣下温泉案内

(其の六)

縣下唯一の稱ある

萱手ラチウム鑛泉

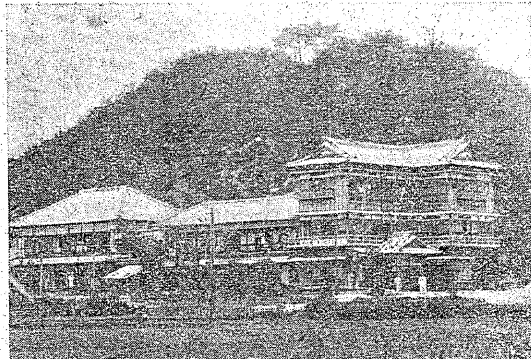
郡山

平

上野

水戸

萱手ラチウム鑛泉



……【景全湯の鶴】……

松風靜に薫り激刺たる魚の波間に躍るを指呼の間に望む、常磐線唯一の風光地として知らる。

名湯「萱手鑛泉」は泉驛下車南方十町餘の山間に在る。鑛泉は元祿十二年藩士本多候が不動尊の靈夢により探査中、丹頂鶴の飛來せるを見て發見の動機を得るに至れりと傳へらる。

靈湯であるがその後今に至る數百年間不動湯亦は鶴の湯と稱されてゐたが、此名湯を廣く天下に誇るべく數年前現在の鑛主が壯麗なる家屋、湯槽の建築をなすに及ん、一層の來遊客の多きを加へ繁榮を極めて居る。

以上の如くにして全鑛泉は名實共に東北に於ける代表的鑛泉として周知するに至つた。

小高町

時田子之助

坂本榮助

富岡町

柏屋

四倉海水浴旅館

四倉町

額賀醫院

電話四番

四倉町

木村醫院

電話三五番

双葉郡大野村

石田醫院

旅館御料理

呑氣亭

大野村

大蒲焼

石澤屋旅館

双葉浪江町驛前